

# 蒲郡市漁場環境保全協議会

調査団体名	蒲郡市漁場環境保全協議会	団体代表者名	伊藤幸昌(蒲郡漁業協同組合部長)
設立年	2009年5月	対応してくれた人の名前	伊藤幸昌
団体URL	<a href="http://www.hitoumi.jp/torikumi/aichi/2179.php">http://www.hitoumi.jp/torikumi/aichi/2179.php</a>	調査員	井上祥一郎、浅田益章
活動拠点	蒲郡市	レポート作成者	井上祥一郎(推敲)、浅田益章(作成)
取材日	2015年12月3日		

## 活動内容

太平洋の波風をまともに受け止める三河湾の中央部に漁港がある。蒲郡漁業協同組合には竹島支所、形原支所、西浦支所があり、今回は形原支所(事務局)でお話を伺った。蒲郡市漁場環境保全協議会は漁業者、蒲郡漁協、三谷漁協、三谷水産高校、西浦小学校のメンバーで活動をしている。代表者の伊藤様に今昔と未来にかけのお話をお聴きした。主な活動は、(1)藻場の保全 (2)干潟等の保全 (3)漁村の文化を伝える活動である。

## キャッチフレーズ

「なぎさはうみのゆりかご。なぎさは人と海との共生の場」

## 会のモットー(何を大切にしているか)

「藻場は多くの生き物を育てて、環境を守っています。」  
また、蒲郡市漁場環境保全協議会が参加している「三河湾環境再生プロジェクト」(愛知県)では「よみがえれ！生きもの」の里“三河湾”を掲げて活動をしている。

## 設立から現在に至るまで変化したこと

協議会設立前から蒲郡漁協青年部のみなさんは、失われた藻場と干潟の再生に取り組んでいた。三河湾の漁獲量が激減していたからである。人工干潟が造成された1998年から2012年ごろにアマモの移植にチャレンジする。アマモを固定する方法もわからず試行錯誤を繰り返した。協議会設立によって民間会社や三谷水産高校、漁協の漁業者、職員が参加し大いに技術を高めた。今では地元の小学生も種まき作業に参加して体験を重ねている。

## 連携している団体・専門家・自治体など

- ① 三河湾環境再生プロジェクト推進委員会(学識経験者、NPO、漁業、流通、観光、レジャー関係者、愛知県顧問)
- ② 蒲郡市 農林水産課
- ③ 愛知県 環境部など

## 山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

### アマモ(甘藻)再生事業の推進

アマモとは、藻ではなく、海草である。花を咲かせ、実を結び、種子によって繁殖する植物で、生育したアマモは沿岸海域の汚染源を吸収分解し、水質を浄化する。アマモ場は魚介類の成育・産卵の場となる。

- ① アマモ種子の確保(漁業者が天然アマモ場より花枝、種子採取)
- ② 再生場所の調査(専門会社による水深調査)
- ③ 再生基盤「ソステラマット」の敷設(多数の漁業者参加)

## 現在直面している課題

- ① アマモ場の確保。(三河湾中央にある蒲郡漁協付近の海岸は太平洋からの波により砂の流失にさらされている。)
- ② 若手漁業者の育成。(蒲郡漁協は主に底引き網漁業である。三河湾内と沖合が漁場であるが漁業資源は年々減少している。魅力ある漁業により、地域ぐるみで若い漁業者を確保し育てたい。)

## 今後やってみたいこと

### ①アマモ場の拡大と漁業資源の増殖:

アマモの草原は魚介類の産卵・育成の場となっている。増殖のためにワタリガニの放流。アサリの天敵ツメタガイの抑制と有効利用のレシピづくり。地場漁業資源を活用した観光・レジャー、暮らし方など地域の輪を広げたい。

### ②若手漁業従事者に魅力ある漁場づくりと漁業経営:

三河湾は豊富で多様な魚介類が育っている。地産地消の漁業資源を生かした付加価値の高い漁業に挑戦する。

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

今は昔のように資源豊かな海に戻りつつある。蒲郡の漁業はこれから。若手の育成も、これからの課題である。漁師は苦勞することも多いけど、質の良いものが獲れる。蒲郡の漁業は魅力いっぱいである。

愛知県が主導する「三河湾環境再生プロジェクト」活動は産官学民の有益な情報、知恵が期待できる。

### ①都会と地域の交流:

情報: 伊勢三河湾流域圏全体からみた蒲郡漁協の価値の再発見、ニーズの入手(第6次産業の視点)

### ②三河湾全体の理解共有。豊川河口の六条潟で生まれたアサリの回遊。矢作川の清流の三河湾水質の改善など。

## チームオリジナルの質問

蒲郡市には大きな川が無い。漁場を豊かにするには背後の山からミネラルなどを運ぶ川が必要ではないでしょうか。(答え)

蒲郡市には大きな川はないけど小さな川がたくさんある。それらを通して、町や里山の栄養分が流れていると思う。また、豊川、矢作川の大きな川からほぼ等距離にある蒲郡漁協(竹島、形原、西浦支所)はアサリなど有名である。それらは三河湾全体の閉鎖系海域の恵みとして漁場を豊かにしている。

もっとも、アサリは六条潟からとってきたものも放流している。訪れるたくさんの潮干狩りのお客様の要求に足りる量と質を確保するため。六条潟のおかげである。

## チームオリジナルの質問

<質問内容> 蒲郡の名産。メヒカリについて。初めて聞く魚ですがどんな魚ですか。(漁港内市場で)

<答え>

蒲郡漁協でたくさん水揚げされる「アオメエソ通称目光」です。深海性の魚でキスぐらいの大きさ。この魚の名前は字のごとく目が光輝いているからです。この魚は太平洋側の沖合いに広く生息しています。白身で脂がのっている。大きいサイズは、刺身・開きにして天ぷら又は干物にすると美味です。これからは、この魚を「蒲郡メヒカリ」としてピーアールしてゆく所存です。

## 取材者からのひとこと

蒲郡市には温泉の観光名所が多い。三谷温泉、蒲郡温泉、形原温泉、西浦温泉。そして、ラゲーナ。三河湾の海の幸がいただけるのは嬉しい。今回はゆっくりと味見はできなかったのもまた来たい。できれば、潮干狩り、人工干潟、アオモの茂る頃。海のお花畑を体験したい。

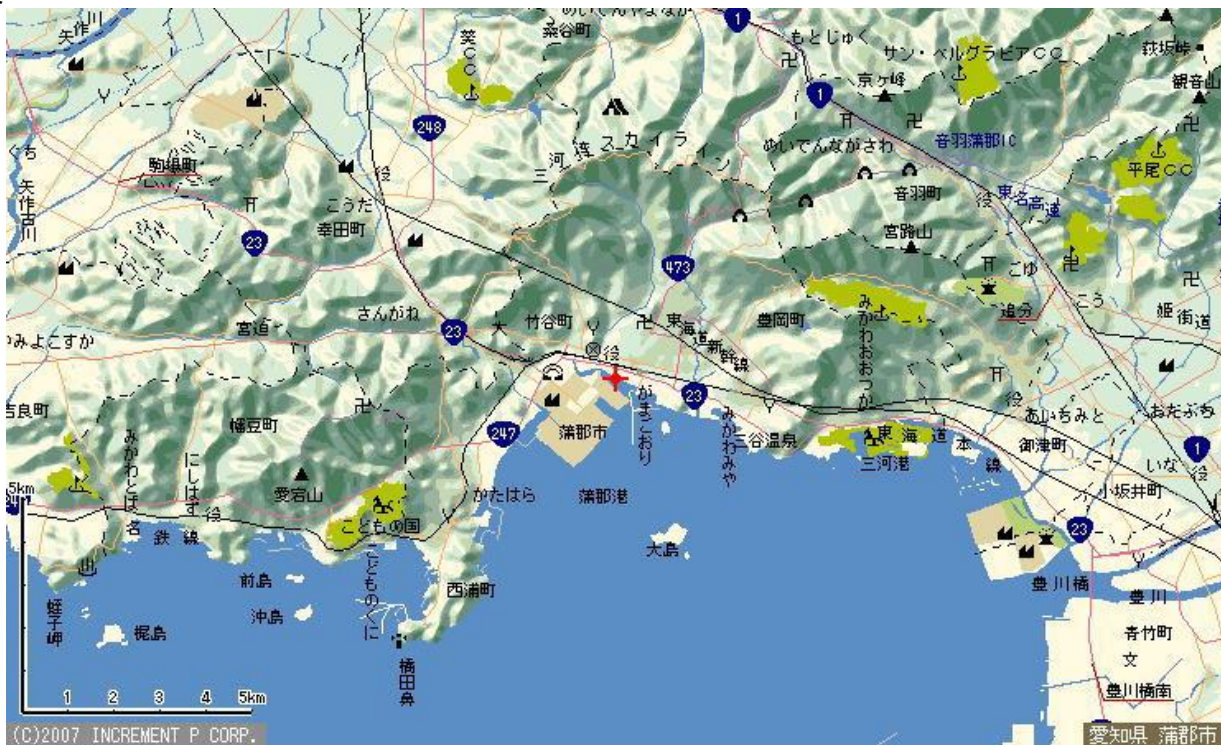
蒲郡漁協には三河湾の漁場を守りたいという強い熱意がある。観光地を控えるこの地域の三河湾の景観と漁業資源は大事な宝である。運命共同体と言える。喜んで漁業を継ぎたいという若者が増えることを祈念します。

アオモの藻場はびっしりと密集するのではなく、ゆったりと点々と広がる藻場が良いとのこと。そこに住む魚たちがゆったりと産卵、生育するにはゆとりが大事ということを教えてください。(矢作川流域圏海部会で学びました。)

人も魚も共存共栄。それがこの三河湾ではできるのではないかと心強く思いました。幸いに矢作川流域懇談会、海部会のメンバーは三河湾環境再生プロジェクトにタッチしている有識者が多い。連携することで矢作川流域圏も良くなっていけると確信しました。矢作川とは河口、小川、道路、地下水脈、地域を通してつながっている。



写真



蒲郡市漁場環境保全協議会のお話を形原支所でお聞きした。三河湾の中央部蒲郡市の海岸沿いにある。右には豊川河口とその周辺の六条潟まで20km。あさりのアサリの稚貝を生み育てる場所。左には矢作川がある。国道23号線で行くと形原支所から20kmの距離。2つの川に挟まれたところにある。背後は山並み三ヶ根山があり、この漁場に大きな川はない。



① 拠点の蒲郡漁業協同組合 形原支所



② 表彰状。漁場環境保全活動。豊かな海づくり大会会長より



③ 漁港内市場。大漁旗と名産地魚販売



④ アマ藻の種取り



⑤ 再生したアマ場に稚魚が住む



⑥ 蒲郡メカリ 絶品。から揚げ最高。上品な味